

調査体制

動植物に関する 8 部会で構成される専門調査部会(以下、調査部会)を立ち上げ、調査を行いました。

動植物に関する調査部会

分類群	部会長	所属
植物	近藤慎一	岐阜県植物研究会 会員
哺乳類	梶浦敬一	ぎふ哺乳動物研究会 会員
鳥類	大塚之穂	日本野鳥の会 岐阜 顧問
	福井強志	日本野鳥の会 岐阜 監事
爬虫類	楠田哲士	岐阜大学応用生物科学部 教授
両生類	高木雅紀	岐阜県立大垣北高等学校 教諭
魚類・甲殻類	向井貴彦	岐阜大学地域科学部 教授
昆虫類	中島和典	岐阜県昆虫分布研究会
貝類	川瀬基弘	愛知みずほ大学人間科学部 准教授
	横井敦史	名古屋市立大学大学院

調査結果

各調査部会の調査結果は次のとおりでした。

令和 7 年度 調査部会の調査結果

分類群	確認種数	新規確認種数	岐阜市レッドリスト 2023 掲載種	岐阜市ブルーリスト 2023 掲載種
植物	363	4	22	35
哺乳類	14		1	5
鳥類	56	1	17	4
爬虫類	8		3	1
両生類	12		9	1
魚類	33		8	4
昆虫類	139	4	4	4
貝類	31		11	1
甲殻類	9	3	2	4※
合計	665	12	77	59

※カワリヌマエビ属の中にシナヌマエビ、ミナミヌマエビ(九州系統)を含む可能性があるため、それぞれを別種として計数

新規確認種

令和 7 年度調査において、岐阜市内で新規に確認された動植物は 12 種でした。

令和 7 年度調査 新規確認種

分類群	科名	和名	備考
植物	ウラボシ科	クロノキシノブ	百々ヶ峰で確認。低標高地の岩などに着生するシダ植物。葉は細長く葉柄が黒い。
	ラン科	クモキリソウ	百々ヶ峰で確認。高さ 10～20 cm の多年草。6～8 月に淡緑色の花を 5～10 個咲かせる。
	マメ科	アレチケツメイ	達目洞で確認。砂質の河原、造成地などに生育する高さ 10～50 cm の一年草。北アメリカ、西インド諸島原産の外来種。
	トウダイグサ科	ギンモウガシワ	達目洞で確認。林縁などに生育する高さ 1～6 m の落葉低木。中国、ベトナム原産の外来種。
鳥類	ハト科	ベニバト	寺田で確認。主に沖縄や九州などの南西諸島に旅鳥または冬鳥として飛来し、岐阜県での確認は珍しい。
昆虫類	オンブバッタ科	アカハネオンブバッタ	北一色、前一色西町で確認。草地、河川敷に生息する。在来のおんぶバッタに類似するが、後翅が赤色。南西諸島原産の国内外来種。近年近畿地方を中心に定着・分布拡大している。
	ハリカメムシ科	マツハリカメムシ	北一色で確認。マツ類の害虫で、マツ類の種子や新芽などから吸汁する。北米原産の外来種。2008 年に東京で初確認され、分布を広げている。
	ゴミシダマシ科	オオモンキゴミシダマシ	外山、鹿穴峠で確認。森林の立ち枯れや倒木に生えるサルノコシカケ類に集まる。丸みのある体に、黄色の紋が特徴。
	カミキリムシ科	クワサビカミキリ	日野東で確認。主に広葉樹林内に生息し、寄主植物の枯枝などでみられる。
甲殻類	カブトエビ科	アメリカカブトエビ	折立で確認。水田に生息する。ホームセンターなどで飼育セットが販売されている。
	ミナエビ科	ミナミヌマエビ※ (九州系統)	伊自良川、板屋川、戸石川で確認。従来、ミナミヌマエビとしていたが、mtDNA 解析の結果、ミナミヌマエビ(九州系統)が含まれることが判明した。
	ミナエビ科	シナヌマエビ※	鳥羽川、両満川、板屋川、戸石川、逆川、岩滝西の水路、上尻毛の水路で確認。従来、ミナミヌマエビとしていたが、mtDNA 解析の結果、シナヌマエビが含まれることが判明した。

※ミナミヌマエビ(九州系統)、シナヌマエビは、これまではミナミヌマエビとしていたが、mtDNA 解析の結果、ミナミヌマエビ(九州系統)とシナヌマエビの 2 種に分類されることが明らかになった。両種とも外来種である。

考察(生物多様性に迫る 4 つの危機)

各分類群について、調査結果から、生物多様性に迫る 4 つの危機、ネイチャーポジティブに関して考察しました。

生物多様性に迫る 4 つの危機

危機	内容
第 1 の危機	開発など人間活動による危機
第 2 の危機	自然に対する手入れ不足による危機
第 3 の危機	人により持ち込まれたものによる危機
第 4 の危機	地球環境の変化による危機

植物

- ・金華山、百ヶ峰を中心に調査を実施し、岐阜市レッドリスト 2023 掲載種を 22 種、岐阜市ブルーリスト 2023 掲載種を 35 種確認した。
- ・特定外来生物のオオハンゴンソウを三田洞で確認した。飛騨地方では在来植生を脅かしており、岐阜市内でも留意し、早期に駆除する必要がある。**【第 3 の危機】**
- ・金華山周辺では自然性の高い常緑広葉樹林が現在も残されており、今年もサイハイラン(絶滅危惧Ⅰ類)、クロヤツシロラン(準絶滅危惧)のような希少な植物を確認した。また、百ヶ峰周辺では、樹林下に生育するギンラン(絶滅危惧Ⅰ類)、クモキリソウ(市内新規確認)などのラン科植物や、岩壁に生育するセッコク(絶滅危惧Ⅰ類、岐阜県指定希少野生生物)、ツメレンゲ(絶滅危惧Ⅱ類)などを確認した。さらに長良川沿いでは、溪谷に生育するナメラダイモンジソウ(絶滅危惧Ⅱ類)、ヒメレンゲ(準絶滅危惧)などが残されていた。**【ネイチャーポジティブ】**
- ・達目洞では、「達目洞自然の会」が外来種駆除、草刈り等により湿地環境を保全しており、昔ながらの里山の自然を今に残している。本年度の調査でも、流水中にヒメコウホネ(絶滅危惧Ⅰ類、岐阜市指定貴重野生動植物種)、湿生地にサギソウ(絶滅危惧Ⅰ類)、ノハナショウブ(絶滅危惧Ⅱ類)、カキツバタ(絶滅危惧Ⅱ類)、サワオグルマ(準絶滅危惧)などの希少な植物の生育を確認した。**【ネイチャーポジティブ】**

哺乳類

- ・達目洞、古津、石谷、上加納などを中心に調査を実施し、岐阜市レッドリスト 2023 掲載種を 1 種、岐阜市ブルーリスト 2023 掲載種を 5 種確認した。
- ・特定外来生物であるヌートリア、クリハラリス、アライグマは、毎年確認されており、シベリアイタチとともに在来生物への食害・競合など生態系への影響が懸念される。**【第 3 の危機】**
- ・ニホンジカが長良川沿いの百ヶ峰まで生息範囲を広げている。ニホンジカの増加は、オオカミの絶滅**【第 1 の危機】**、猟師の減少**【第 2 の危機】**、温暖化**【第 4 の危機】**などが要因とされ、各地で下層植生への食害が報告されているため、今後の動向に留意する必要がある。
- ・達目洞ではカヤネズミ(準絶滅危惧)の玉巢を確認した。ここでは、「達目洞自然の会」が外来種駆除、草刈り等により湿地環境を保全している。**【ネイチャーポジティブ】**

鳥類

- ・鏡島の長良川河川敷を中心に調査を実施し、岐阜市レッドリスト 2023 掲載種を 17 種、岐阜市ブルーリスト 2023 掲載種を 4 種確認した。
- ・長良川では、ゴイサギ(絶滅危惧Ⅱ類)、コサギ(準絶滅危惧)、オオタカ(準絶滅危惧)、カイツブリ(準絶滅危惧)などを確認した。河川敷は市内に残された大規模かつ多様な自然環境である。防災の理由から河畔林の伐採を行う際は、野鳥などの生息環境維持のため、モザイク状に計画的に行われるのが好ましい。**【第 1 の危機】**
- ・特定外来生物のガビチョウとソウシチョウを確認したが、著しい増減はない。**【第 3 の危機】**
- ・木田と寺田の水田では、ここ数年、市内での観察がなかったタマシギ(絶滅危惧ⅠB 類)を雌雄で確認した。**【ネイチャーポジティブ】**
- ・ながら川ふれあいの森(三田洞)では、コサメビタキ(絶滅危惧Ⅱ類)、ヤマドリ(準絶滅危惧)、サンコウチョウ(準絶滅危惧)、サンショウクイ(準絶滅危惧)、オオルリ(準絶滅危惧)を確認した。良好な樹林環境が残されており、「ふれあいの森自然学校」が散策会・観察など自然の魅力にふれあう活動を行っている。**【ネイチャーポジティブ】**

爬虫類

- ・2009-2011 年の淡水生カメ類の捕獲調査でニホンイシガメが捕獲された岐阜市北部のうち北西部の 11 地点(重点調査地)を中心に捕獲調査を実施し、岐阜市レッドリスト 2023 掲載種 2 種(ニホンイシガメ、ニホンスッポン)、岐阜市ブルーリスト 2023 掲載種 1 種(ミシシippアカミミガメ)、その他 1 種(クサガメ)を確認した。
- ・上記の重点調査地および岐阜大学周辺の調査地において、ニホンイシガメ(絶滅危惧Ⅱ類)を捕獲できたのは 4 地点(うち重点調査地 3 地点)だけで、多くの地点でミシシippアカミミガメ(条件付特定外来生物)とクサガメが多数捕獲された。ニホンイシガメとクサガメの雑種も捕獲された。**【第1、第2、第3の危機】**
- ・一般から、金華山でのシロマダラ(情報不足)の目撃情報が岐阜市へ寄せられた。

両生類

- ・大洞などを中心に調査を実施し、岐阜市レッドリスト 2023 掲載種を 9 種、岐阜市ブルーリスト 2023 掲載種を 1 種確認した。
- ・確認した両生類の岐阜市レッドリスト 2023 掲載種のうち、ヤマトサンショウウオは岐阜市の貴重野生動物種、オオサンショウウオは国の特別天然記念物に該当する種である。
- ・ニホンアカガエル(絶滅危惧Ⅰ類)やヤマアカガエル(絶滅危惧Ⅰ類)、ナゴヤダルマガエル(絶滅危惧Ⅱ類)も数か所で確認した。しかし、水田の乾田化が進み、生息地が減少傾向にある。**【第 2 の危機】**
- ・アメリカザリガニが増加しており、ヤマアカガエルの卵への影響(食害)が大きいと考えられる。また、池に生息しているコイの食害による影響も懸念材料となる。**【第 3 の危機】**
- ・ヤマトサンショウウオ、ニホンアカガエル、ヤマアカガエルは、温暖化の影響と考えられる気温の上昇や春先の少雨による繁殖場所の渇水の影響を強く受けている。**【第 4 の危機】**
- ・大垣北高校、岐阜大学、アクア・トトぎふによる保護活動が行われている梅林公園では、アズマヒキガエル(絶滅危惧Ⅰ類)が繁殖している。**【ネイチャーポジティブ】**

- ・ヤマトサンショウウオについては、岐阜高校と岐阜大学によって、保全活動と生息状況のモニタリングが継続されている。【ネイチャーポジティブ】
- ・「大洞の里山つくろう会」、大垣北高校、岐阜大学、岐阜市自然環境保全推進委員会などのメンバーによって、ニホンアカガエルの繁殖場所の整備を行った。【ネイチャーポジティブ】

魚類・甲殻類

- ・長良川などを中心に調査を実施し、魚類では岐阜市レッドリスト 2023 掲載種を 8 種、岐阜市ブルーリスト 2023 掲載種を 4 種、甲殻類では岐阜市レッドリスト 2023 掲載種を 2 種、岐阜市ブルーリスト 2023 掲載種を 4 種※確認した。

※カワリヌマエビ属の中にシナヌマエビ、ミナミヌマエビ(九州系統)を含む可能性があるので、それぞれを別種として計数

■魚類

- ・昨年度調査から引き続き特定外来生物のオオクチバスを確認した。オオクチバスは動物食性が強く、魚類、甲殻類、水生昆虫などを捕食するため、在来生態系への影響が懸念される。【第 3 の危機】
- ・昨年から引き続きヤリヤナゴ(絶滅危惧Ⅱ類)、アブラボテ(準絶滅危惧)などを確認した。【ネイチャーポジティブ】

■甲殻類

- ・昨年度調査から引き続きアメリカザリガニを確認した。また、椿洞などでシナヌマエビ、柳津町でカワリヌマエビ属を確認した。これらの外来コエビ類は、生息環境が類似するスジエビやヌカエビなどの在来コエビ類への影響が懸念される。【第 3 の危機】
- ・岐阜市内で断片的に記録があるミナミヌマエビについて遺伝子解析したところ、外来系統である可能性が示唆された。今後の精査の結果次第では、上記の外来コエビ類と同様に在来コエビ類への影響が懸念される。【第 3 の危機】

昆虫類

- ・大洞、出屋敷、佐野などを中心に調査を実施し、岐阜市レッドリスト 2023 掲載種を 4 種、岐阜市ブルーリスト 2023 掲載種を 4 種確認した。
- ・特定外来生物であるアカボシゴマダラは、昨年度、岐阜市初記録であったが、本年度は芥見町屋、佐野、大洞、北一色などで確認され、比較的普通にみられるようになった。また、新たに確認したアカハネオンブバッタは急速に個体数を増やしている。一方、在来種のオンブバッタは見られなくなっており、今後の動向を注視する必要がある。【第 3 の危機】
- ・長良川では、環境の変化に弱いクツワムシ(情報不足)を確認した。林縁部や草地のクズの藪に生息し、秋の夜にガチャガチャと大きな声で鳴く種である。【ネイチャーポジティブ】以前から生息が確認できている日野の長良川左岸では今年も安定した発生が確認できたが、上流地点では探索をしたものの新たな生息地は今年も発見できなかった。

- ・大洞では、ヒメタイコウチ(絶滅危惧Ⅱ類)、ギフチョウ(環境省レッドリスト2020 絶滅危惧Ⅱ類)を確認した。近年、手入れ不足により里山に生息する昆虫類が減少している【第2の危機】が、ここでは、地元小・中学校と自治会の協働による河川清掃や山田川のホタル生息環境保全活動などが行われている。【ネイチャーポジティブ】以前は確実な生息地であった金華山東麓や岩田坂では、近年ギフチョウの発生が確認できず、岐阜市における長良川左岸側山塊の生息地として、大洞は貴重な場所である。ただし、大洞の発生地は非常に狭く、おそらくは隣接の関市から続く個体群だと考えられる。

貝類

- ・芥見町屋などを中心に調査を実施し、岐阜市レッドリスト 2023 掲載種を 11 種、岐阜市ブルーリスト 2023 掲載種を 1 種確認した。
- ・岐阜市版レッドデータブック・ブルーデータブック 2023 までの調査から引き続き外来種のタイワンシジミが確認されている。在来のマシジミとの交雑が懸念される。【第3の危機】
- ・昨年度調査から引き続き二枚貝のイシガイ(絶滅危惧Ⅰ類)やマツカサガイ東海固有種(絶滅危惧Ⅰ類)、陸産貝類のヒルゲンドルフマイマイ(準絶滅危惧)、キュウシュウゴマガイ(準絶滅危惧)が継続的に生息している状況を確認した。なお、東海地域の“イシガイ”とされてきた種はタテボシ(ガイ)である可能性が高い。【ネイチャーポジティブ】